

公認心理師

実務基礎研修

公認心理師の資質向上を図る

 **このような方々の学びに適しています** 

これから公認心理師として実務に就く方

あらためて基本を学び直したい方

多職種連携のためにさらに理解の幅を広げたい方

公認心理師試験研修センター・理事長挨拶

一般財団法人公認心理師試験研修センター
理事長 岡田 太造



一般財団法人公認心理師試験研修センターは、「実務基礎研修」を開講しています。現代社会では、様々な心理的課題を抱えながら生活されている方々が少なくありません。公認心理師の皆様は、心理領域の国家資格を有する専門家として、こうした方々のこころの健康を支えるとともに、心理的課題で悩まれる方々を生み出さないような社会づくりに携わっていただくことが求められています。

「実務基礎研修」は、公認心理師の方々を対象として、実務に就く上で基礎となるさまざまな力を身につけていただけるような研修を目指しています。この研修を受けることで、人間性・知識・技術のバランスのとれた公認心理師を目指していただきたいと思います。

本研修では、2年間で約130時間程度の講義を用意しています。講師は、第一線でご活躍されている専門家の先生方をお願いしており、幅広い分野について内容の濃いものとなっていると自負しています。また、2年目には、実開催による集合研修の他に、一緒に研修を受けられている方々等との交流を通して研鑽を深めていただく、実務者交流会も予定しています。

皆様の日常業務の質の向上を図るためにも、「実務基礎研修」の受講をご検討いただきますようお願いいたします。

実務基礎研修検討委員会・委員長挨拶

実務基礎研修検討委員会
委員長 神庭 重信



心理カウンセリングを必要としている方は、家庭、職場、教育現場、医療現場など広く社会の隅々におられ、心理臨床家の活躍が期待されている分野として、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働があります。

どのクライアントも、自分のおかれた状況に困惑し、孤立感や絶望感を抱き、その状況にとどまり前に進めずにいます。センター前理事長の村瀬嘉代子先生の言葉を借りるなら、心理臨床とは、その個人がより生きやすくなることを、心理学の理論に基づいた技法を用いて援助していくことであり、心理臨床家は、さりげなく自分の座標軸をもち、多軸で観察し思考する必要があります。クライアントの抱える問題は、本人の特性と育ってきた環境や現在おかれた環境とが複雑に関係しています。この極めて複雑で多様な問題を理解し、適切に援助するためには、人間とはどういう存在か、人間の発達と成長とはいかなるものか、規範・法律、社会、文化はどのような影響をもつのかなど、分野横断的な基本知識を身につける必要があります。加えて、心理臨床家はメンタルヘルスに関わる多職種と連携して問題解決にあたることが求められています。このため、実務基礎研修は、共通基礎研修と分野横断的な基本研修、および多職種連携のあり方を特に重視した内容構成となっています。

人間性・知識・技術においてバランスの取れた心理臨床家になる上で、実務基礎研修が一人でも多くの方のお役にたつことを願っています。

研修のねらい

実務基礎研修が目指すもの

「人間性・知識・技術のバランスのとれた心理専門職」

本研修の受講を通じて

- ①人間と社会への多角的な理解を深め、
ジェネラルな職業人としての基本姿勢を涵養する。
- ②要支援者やその関係者に対する的確な理解に基づき、
多様なニーズに即した適切な支援を提供できる
実践的な考え方を身につける。
- ③実践を謙虚に振り返り、内省して、さらに学び、考えながら
実践を続けようとする、自己探求の姿勢に繋げる。

◆各研修課題は実務に関わる内容で構成されています。

- ①実務を考える視座を身につけるための基礎的・本質的なテーマ
- ②実務で遭遇する実践的な課題を多角的に捉え考えるテーマ
- ③職域各分野の特質を踏まえて、実務の基本を考えるテーマ

研修課程

		オンデマンド研修		
		同一コースの研修課題については 繰り返し視聴することが可能です		
研修1年目	第1クール	必修 共通基礎研修	10単元 28研修課題※ 34時間	※研修課題あたり 1時間～1時間半程度の講義時間となります
	第2クール	必修 5分野基礎研修 5分野横断的な基本的課題	12単元 28研修課題※ 32時間	
研修2年目	第3クール	必修 5分野基礎研修 5分野の実務における基本的課題①	5分野×5研修課題※ 30時間程度	5分野基礎研修 — 必修 1日開催の集合研修として5時間程度 実施いたします オンライン受講を併用いたします
	第4クール	必修 5分野基礎研修 5分野の実務における基本的課題②	5分野×5研修課題※ 30時間程度	実務者交流研修 — 任意 1日開催の集合研修として5時間程度 実施いたします 任意による参加とします

研修修了の認定について

第1クールから第4クールまでの全ての研修課題の受講及び実開催研修(5分野基礎研修)の受講が要件となります。ただし「実務者交流研修」については任意による参加とし、修了要件に含めません。

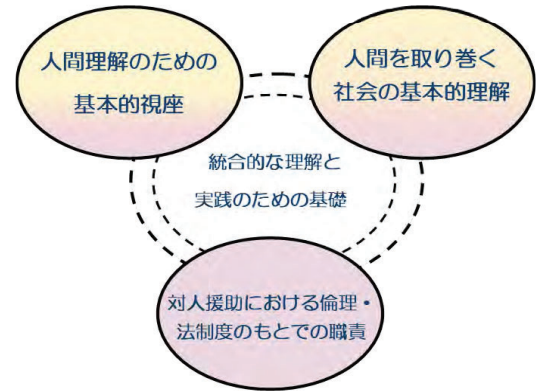


第1クール (研修1年目 前期)

共通基礎研修

【共通基礎研修の主な研修課題】

- ・公認心理師の職責や対人援助を行う上で不可欠な倫理観の基礎となる研修課題
- ・人間を理解していくための基本的視座となる研修課題
- ・人間社会を形成するさまざまな仕組みに関する研修課題



基本原理の学習を通じて職務に対する基本的な姿勢を確立する

第2クール (研修1年目 後期)

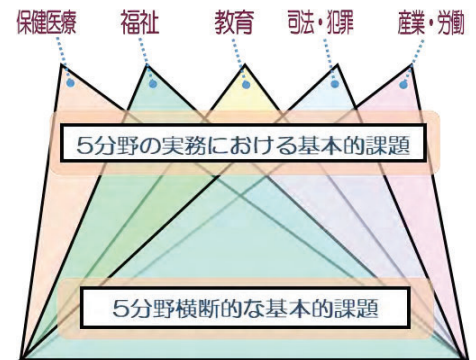
5分野基礎研修

5分野横断的な基本的課題

【5分野基礎研修の主な研修課題】

「5分野横断的な基本的課題」

- ・実務に即した研修課題を学ぶ
- ・各單元では、心理職としてどの分野で働く上でも理解しておくべき、実践上の具体的な基本課題を分野横断的な視点から取り上げる



実務の基本を学び、自らの職務に活かせる視点を得る

第3・4クール (研修2年目 前期・後期)

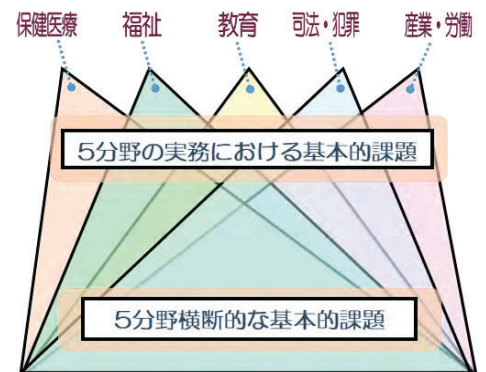
5分野基礎研修

5分野の実務における基本的課題

【5分野基礎研修の主な研修課題】

「5分野の実務における基本的課題」

- ・実務に即した研修課題を学ぶ
- ・各單元では、5分野それぞれの実務に即した実践的な研修課題を取り上げ、各分野の特質や異同の理解を通じて心理職としての幅をさらに広げる



実務の基本を学び、自らの職務に活かせる視点を得る

実開催研修 (研修2年目 前期・後期)

実開催による研修

オンデマンド研修を補完し、最新のトピックスを学び、研修受講者の交流促進を図る。

第3クール 研修2年目前期 (秋頃)

実務者交流研修(実開催・1日)

【実務者交流研修の主な研修課題 (例)】

- ・受講者同士の実践交流により学び合う
- ・中堅実務者の経験から実践のヒントを得る
- ・多職種実務者との交流により視野を広げる



任意受講とし研修の修了要件には含めません

第3クール 研修2年目後期 (夏頃)

5分野基礎研修(実開催・1日及びオンライン配信)

【5分野基礎研修の主な研修課題 (例)】

- ・各分野の施策や現状の最新情報
- ・多分野の視点による事例検討
- ・テーマに基づくシンポジウム

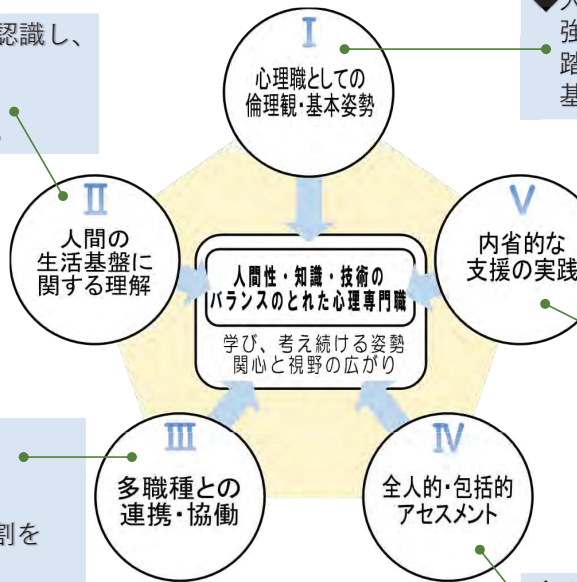


受講必修とし研修の修了要件に含めます

研修課題が準拠する5つの観点

◆複雑かつ変化する社会状況を認識し、時代や職場の現状に即して、公認心理師として果たすべき社会的責任と使命を自覚する。

◆人間の尊厳に対する深い畏敬の念と、強く温かな関心をもち、時・所・位を踏まえて誠実に職務にあたる基本的な姿勢と態度を身につける。



◆生活の多様性に基づき専門的な支援を行う多職種の価値観と役割を理解して、支援体制全体の中で自らの役割を適切に果たすことができる。

◆心理職として行った支援やチームで行った支援を、当事者の視点及び多角的な視点から率直に評価し、その後の実践に結びつけることができる。

研修テーマ設定の5つの観点

◆人間の営為に関わる背景や要因を広く理解し、当事者のニーズを大切にしながら、一人一人の理解を多面的かつ的確に行うことができる。

シラバスの例

受講申込後、e-learningシステムからダウンロードができます。

観点	I 心理職としての倫理観・基本姿勢
	II 人間の生活基盤に関する理解
	III 多職種との連携・協働
	IV 全人的・包括的アセスメント
	V 内省的な支援の実践

研修単元

共通基礎研修 研修単元

10 身体とこころ

本単元のねらい

【趣旨】

身体とこころの関係、すなわち、心身相関の問題は、心理学における最も重要な基本問題である。近年は、心身相関における脳の影響がさらに明らかになり、身体への働きかけを通じて、こころに働きかけるソマティックな心理的支援のアプローチも活況を呈している。しかしながら、伝統的に心理的支援の専門家は身体を扱うことを避ける傾向があり、それは今なお、多くみられる。その理由の一つは、定式化された心理療法の大部分が言語的操作による働きかけを主体としてきており、こころを介するイメージとしての身体がその実体よりも重視されてきたこと、もう一つは、クライアントの身体にセラピストが触れることが倫理的にもタブー視されてきたこと、などが関連している。本単元では、こうした心理専門職一般の身体に対する苦手意識を払拭することを第一の目標に挙げ、身体とこころの関係について理解を深めたい。

【目標】

- ① 身体とこころの関係を理解し、身体に対する理解を深めるとともに、身体を扱うことに対する苦手意識を払拭する。
- ② 現場での実例を通じて、心身相関の問題について、より実践的に考える。
- ③ 精神疾患の診断をめぐる問題を通して診断やアセスメントの効用と限界を理解する。

趣旨

研修単元設定の趣旨

目標

研修単元の中で学んでいただきたいことを明示

研修課題

研修単元を構成する研修課題の明示

研修課題設定のねらい
本時で取り上げる研修内容についての記載

本研修単元の研修課題	観点	主な研修内容	研修形式/研修講師
① 身体とこころ	I	身体とこころとは相互に関わりあうことについて理解を深める。こころが身体に影響を及ぼす側面だけでなく、身体がこころに影響を及ぼす側面にも注目する。イントロダクションとして、心身相関を理解することの重要性を指摘する理論(例えば、マインドフルネスやボクソロジー理論)を紹介し、さらに臨床現場における実例を用いながら、精神医療及び精神神経学のエキスパートとともに、より実践的に学ぶ。	研修形式 講義形式(リレー形式)
	II		研修講師
	III		黒木 俊秀(九州大学、教授)
	IV		飛野 宏昭(早稲田大学、教授)
	V		根本 浩祐(愛知医科大学、教授)
② こころの病とこころの健康を考える	I	「こころの健康と病の境界線とは?」「何のための、誰のための見立てか?」という基本問題を考えることを通じて、精神疾患の診断をめぐる問題や、診断やアセスメントの効用と限界を理解する。発達障害をめぐる問題	研修形式 シンポジウム形式
	II		研修講師
	III		黒木 俊秀(九州大学、教授)

研修課題に合わせた多様な講義形式

- ・一人の講師による講義
- ・複数講師によるリレー講義
- ・シンポジウム形式
- ・対談形式の講義

研修課題の5つの観点
各研修課題の内容が準拠する観点を受講者に明示する
(各観点の内容は次ページ)

第1クール【1年目・前期】

共通基礎研修 研修課題のリスト



基本原理の学習を通じて職務に対する基本的な姿勢を確立する

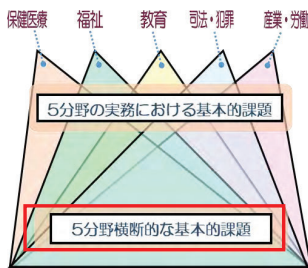
◆共通基礎研修では、公認心理師の職責と対人援助を行うにあたって不可欠な倫理観の基礎となる研修課題をはじめとして、人間を理解していくための基本的視座となる考え方や、人間社会を形成するさまざまな仕組みに関する課題を学ぶ。各課題相互の内容の統合的な理解を通じて、心理的な支援に関わる基本原理を学び、実務上の実践的な課題を考えるための土台づくりを行うとともに、職務に対する基本的な姿勢を確立することを目指す。

【講義形式】

- ・講師1名による講義・・・◎
- ・複数名講師による講義・・・○
- ・インタビュー講義・・・・・・△
- ・シンポジウム講義・・・・・・□

共通基礎研修 単元		共通基礎研修 各単元の研修課題（各単元1時間程度）		講義形式	研修講師
1	国家資格としての公認心理師	①	国家資格としての公認心理師	◎	村瀬 嘉代子（日本心理研修センター、顧問）
2	人の権利と尊厳	②	基本的人権の尊重と今日的課題	◎	岩佐 嘉彦（子ども虐待防止学会理事長、弁護士）
		③	人々の権利を守る社会制度の仕組み	△	増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長） 高橋 温（NPO法人子どもセンターてんぼ理事長、弁護士） 畑山 麗衣（NPO法人Giving Tree、ピアカウンセラー）
3	法と倫理	④	生命倫理	◎	香川 知晶（山梨大学、名誉教授）
		⑤	人間のこころにひそむもの	◎	森岡 正芳（立命館大学、教授）
		⑥	法制度と職業倫理のジレンマの中で	◎	古村 健（国立病院機構東尾張病院、心理療法士）
4	人間の発達と成長	⑦	いのちの誕生	◎	永田 雅子（名古屋大学、教授）
		⑧	脳とこころの発達	◎	黒田 公美（東京工業大学 生命理工学院、教授）
		⑨	人間のライフ・サイクルと心理社会的成長	◎	遠藤 利彦（東京大学、教授）
		⑩	老いと死	◎	神田橋 宏治（としま昭和病院、医師）
5	人間の理解を考える	⑪	人間の理解、人間存在の理解	△	神庭 重信（九州大学、名誉教授） 島園 進（東京大学、名誉教授）
		⑫	心理的支援の現場における実践的なアセスメント	○	熊上 崇（和光大学、教授） 橋本 忠行（香川大学、教授）
		⑬	公認心理師としての自己理解と職能的発達	◎	岩壁 茂（立命館大学、教授）
6	対人援助における多職種連携と協働	⑭	多職種連携・協働の理念	○	中尾 智博（九州大学、教授） 石隈 利紀（東京成徳大学、教授）
		⑮	連携・協働に必要な実践力 ①情報共有するための事例の記録と報告	○	増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長） 橋本 和明（国際医療福祉大学、教授）
		⑯	連携・協働に必要な実践力 ②連携・協働するためのコミュニケーション・相互コンサルテーション	○	三宅 美樹（株式会社トヨタ車体研究所） 田村 節子（東京成徳大学、教授）
7	家族・生活とこころ	⑰	家族	◎	神谷 哲司（東北大学、教授）
		⑱	生活の営みとこころ	□	増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長） 松永 忠（社会福祉法人別府光の園、統括施設長） 国分 美希（社会福祉法人至誠学舎立川 至誠大空の家、施設長）
		⑲	家族像とアイデンティティ	□	神谷 哲司（東北大学、教授） 松永 忠（社会福祉法人別府光の園、統括施設長） 国分 美希（社会福祉法人至誠学舎立川 至誠大空の家、施設長）
8	社会・経済とこころ	⑳	産業（経済）とこころ	◎	千本 侔生（株式会社レノバ、名誉会長）
		㉑	現代社会とキャリア	◎	下村 英雄（独立行政法人労働政策研究・研修機構職業構造・職業指導部門、副統括研究員）
		㉒	社会集団・組織と心身の健康	◎	山口 裕幸（九州大学、教授）
9	文化とこころ	㉓	文化における普遍性と多様性	○	長谷川 眞理子（総合研究大学院大学、前学長） 外山 みどり（学習院大学、名誉教授） 波平 恵美子（お茶の水女子大学、名誉教授）
		㉔	心理的支援の実践における文化	◎	江口 重幸（東京武蔵野病院、名誉副院長）
		㉕	マイノリティの文化と心理的支援	○	加賀美 常美代（目白大学、教授） 熊谷 晋一郎（東京大学、准教授） 葛西 真記子（鳴門教育大学、教授）
		㉖	文化間移動のこころへの影響	◎	徳永 智子（筑波大学、准教授）
10	身体とこころ	㉗	身体とこころ	○	黒木 俊秀（九州大学、教授） 熊野 宏昭（早稲田大学、教授） 兼本 浩祐（愛知医科大学、教授）
		㉘	こころの病とこころの健康を考える	□	黒木 俊秀（九州大学、教授） 山下 洋（九州大学病院、特任准教授） 杉山 登志郎（福井大学、客員教授）

5分野基礎研修（5分野横断的な基本的課題）研修課題のリスト



実務の基本を学び、自らの職務に活かせる視点を得る

◆ 5分野基礎研修では、共通基礎研修での理解をもとに、心理職の職務に関わる実践的なテーマについて2つ基本的課題を学ぶ。「5分野横断的な基本的課題」では、実践上の具体的なテーマを5分野横断的な視点から学ぶことを通じて視野を広げるとともに、心理職としての基本的視座を身につける。

【講義形式】

- ・講師1名による講義・・・◎
- ・複数名講師による講義・・・○
- ・インタビュー講義・・・△
- ・シンポジウム講義・・・□

5分野横断的な基本的課題 単元		5分野横断的な基本的課題 各単元の研修課題（各単元1時間程度）		講義形式	研修講師
導入	人々の生活を支える 礎となるもの	導入	人々の暮らしを支える礎となるものー法と医療の視点からー	○	安倍 嘉人（元東京高等裁判所、長官） 神庭 重信（九州大学、名誉教授） 村瀬 嘉代子（大正大学、名誉・客員教授）
1	心理専門家の責任、 クライアントの責任	①	心理専門家の責任とクライアントの責任	◎	森田 美弥子（名古屋大学、名誉教授）
		②	障害と罪の有責性を考える	◎	安保 千秋（都大路法律事務所、弁護士）
2	事実を探究する	③	事実への接近	◎	金矢 拓（四季の風総合法律事務所城南オフィス、弁護士）
		④	さまざまな分野における事実の取り扱い	□	神庭 重信（九州大学、名誉教授） 黒木 俊秀（九州大学、教授） 増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長） 石隈 利紀（東京成徳大学、教授） 橋本 和明（国際医療福祉大学、教授） 金井 篤子（名古屋大学、教授）
		⑤	心理的支援の実践と研究成果：科学的根拠	◎	岩壁 茂（立命館大学、教授）
3	自分にとって大切なことを 知ること、伝えること、 共有すること	⑥	インフォームド・コンセントと協働による意志決定	◎	田中 康雄（こころそだちのクリニックむすびめ、医師）
		⑦	生命と存在に関わる真実告知	○	久保田 馨（日本医科大学、教授） 柘植 あづみ（明治学院大学、副学長・教授） 山田 勝美（山梨県立大学、教授）
4	病いと障害を考える	⑧	病気・障害とこころ	◎	黒木 俊秀（九州大学、教授）
		⑨	重い病気の子ども：障害とこころ	◎	藤野 陽生（大阪大学、准教授）
		⑩	神経発達症・障害とこころ	◎	井上 雅彦（鳥取大学、教授） 黒田 美保（田園調布学園大学、教授）
5	現代社会の問題と支援Ⅰ 自らを傷つけること	⑪	自傷について	◎	松本 俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、 薬物依存研究部部長(兼任)薬物依存症センター、センター長）
		⑫	自殺（自死）について	◎	新井 肇（関西外国語大学、教授）
6	現代社会の問題と支援Ⅱ 他者を傷つけること	⑬	暴力や加害の背景にあるもの	◎	藤岡 淳子（大阪大学、名誉教授）
		⑭	虐待、DV、いじめ、ハラスメント ー弱者への暴力を考えるー	◎	中村 正（立命館大学、教授）
		⑮	暴力の世代間伝達	◎	野坂 祐子（大阪大学、教授）
7	現代社会の問題と支援Ⅲ 危機と支援	⑯	危機への理解と支援	◎	窪田 由紀（九州産業大学、科研費特任研究員）
		⑰	危機対応におけるコミュニケーション	◎	平井 啓（大阪大学、准教授）
		⑱	災害における危機対応	○	河原 譲（厚生労働省委託事業DPAT事務局次長、医師） 大澤 智子（兵庫県こころのケアセンター、上席研究主幹）
8	現代社会の問題と支援Ⅳ 医療化・心理学的化	⑲	医療化／心理化とメンタルヘルスクアの社会化	◎	石原 孝二（東京大学、教授）
		⑳	こころの病とこころの薬	◎	黒木 俊秀（九州大学、教授）
9	現代社会の問題と支援Ⅴ 高齢化・認知症	㉑	認知症の理解と支援	◎	繁田 雅弘（東京慈恵医科大学、主任教授）
		㉒	高齢者・その支援者を共に支える	◎	繁田 雅弘（東京慈恵医科大学、主任教授）
10	現代社会の問題と支援Ⅵ 貧困・孤立・不登校 ・社会的ひきこもり	㉓	貧困の理解	◎	松本 伊智朗（北海道大学、名誉教授）
		㉔	不登校と社会的ひきこもり	○	伊藤 美奈子（奈良女子大学、教授） 斎藤 環（筑波大学、教授）
11	内省的実践	㉕	日々の実践を振り返る	◎	増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長）
		㉖	スーパービジョンにおける学び方	□	橋本 和明（国際医療福祉大学、教授） 谷 麻衣子（愛知県医療療育総合センター中央病院、主任） 鈴木 隆文（児童心理治療施設名古屋市くすのき学園、心理士） 今枝 美幸（金城学院大学、助教） 近藤 隆夫（帝塚山大学、教授・元家裁調査官） 水島 秀聡（小島プレス工業株式会社、課長）
		㉗	ケースカンファレンスにおける学び方	◎	川瀬 正裕（金城学院大学、教授）

第3クール【2年目・前期】

5分野基礎研修（5分野の実務における基本的課題）研修課題のリスト

保健医療 福祉 教育 司法・犯罪 産業・労働

5分野の実務における基本的課題

5分野横断的な基本的課題

実務の基本を学び、自らの職務に活かせる視点を得る

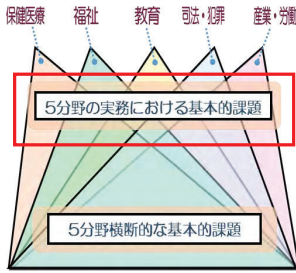
◆5分野基礎研修では、共通基礎研修での理解をもとに、心理職の職務に関わる実践的なテーマについて2つ基本的課題を学ぶ。
「5分野の実務における基本的課題」では、5分野の実務の基本を学び、各分野の特質や異同を理解して、自らの職務に活かせる視点を得ることを目指す。

【講義形式】

- ・講師1名による講義・・・◎
- ・複数名講師による講義・・・○
- ・インタビュー・対談講義・・・△
- ・シンポジウム講義・・・□

5分野の実務における基本的課題 単元	5分野の実務における基本的課題 各単元の研修課題（各単元1時間程度）	講義形式	研修講師
1 保健医療分野の実務における基本的課題	① 我が国の保健医療制度の現状と課題	◎	吉川 隆博（東海大学、教授）
	② チーム医療とリーダーシップ	○	畠山 卓也（高知県立大学、准教授） 古村 健（国立病院機構東尾張病院、心理療法士）
	③ 一般身体科領域における公認心理師への期待	◎	服巻 豊（広島大学、教授）
	④ 生活習慣と未病状態への支援	◎	神田橋 宏治（としま昭和病院、医師） 竹中 晃二（早稲田大学、名誉教授）
	⑤ 保健医療分野におけるトラウマインフォームドケア	◎	大岡 由佳（武庫川女子大学、准教授）
2 福祉分野の実務における基本的課題	① 生活と心理臨床	◎	滝川 一廣（あなはクリニック、医師）
	② 福祉領域における権利擁護と法制度	○	高橋 温（新横浜法律事務所、弁護士） 丹野 傑史（長野大学、教授） 加藤 伸司（東北福祉大学、教授）
	③ 多職種協働による支援と心理職の役割	○	薬師寺 真（倉敷児童相談所、所長） 下山 真衣（信州大学、准教授） 加藤 伸司（東北福祉大学、教授）
	④ 子育て支援と心理職の役割	◎	八木 安理子（同志社大学、客員教授）
	⑤ 障害のある当事者、家族、支援者への支援と心理職の役割	◎	田熊 立（千葉県発達障害者支援センターCAS、副所長）
3 教育分野の実務における基本的課題	① 教育の現状と動向	○	仲村 健二（文部科学省児童生徒課生涯指導室、室長） 石隈 利紀（東京成徳大学、特任教授）
	② 学校組織とチーム学校の理解	○	山口 豊一（聖徳大学、教授） 石川 悦子（こども教育宝仙大学、教授）
	③ 子どもの問題と心理教育的援助サービスのモデル	○	新井 雅（跡見学園女子大学、教授） 大石 幸二（立教大学、教授）
	④ 家庭や地域の問題と心理教育的援助サービス	○	水野 治久（大阪教育大学、教授） 野田 正人（立命館大学、特任教授）
	⑤ 子ども、学校組織・風土、環境のアセスメント	○	半田 一郎（子育てカウンセリング リソースポート） 小野 純平（法政大学、教授）
4 司法・犯罪分野の実務における基本的課題	導入 司法における人間へのまなざし	○	廣瀬 健二（元裁判所判事） 橋本 和明（国際医療福祉大学、教授）
	① 司法・犯罪関連施設における生活と関係性の治療的意味	△	村瀬 嘉代子（日本心理研修センター顧問 大正大学客員名誉教授） 富田 拓（北海道家庭学校樹下庵・網走刑務所医務課、医師）
	② 司法・犯罪分野における特有の感情の理解	◎	門本 泉（大正大学、教授）
	③ 公的支援と民間支援のシームレス連携	□	犬塚 貴浩（大阪刑務所、法務教官） 谷 真如（内閣府内閣サイバーセキュリティセンター、参事官補佐） 野村 和孝（北里大学、准教授） 浅見 祐香（目白大学、専任講師） 嶋田 洋徳（早稲田大学、教授）
	④ 反省や内省を促す心理職の関わり	○	石川 隆行（宇都宮大学共同教育学部、准教授） 門本 泉（大正大学、教授）
⑤ 加害者支援と犯罪被害者支援	○	寺田 孝（川越少年刑務所、法務教官） 齋藤 梓（上智大学総合人間科学部、准教授）	
5 産業・労働分野の実務における基本的課題	① キャリアサイクル理論 ～新入社員のリアリティ・ショック～	◎	道谷 里英（順天堂大学、前任准教授）
	② 組織論 ～若手社員のうつつ反応～	◎	佐藤 恵美（メンタルサポート&コンサル沖縄）
	③ 組織マネジメント論 ～部長職による人材育成～	◎	佐倉 健史（さんぎょうい株式会社 メンタルヘルス・ソリューション事業室、室長）
	④ リーダーシップ論 ～女性研究職の登用～	◎	大庭 さよ（メンタルサポート&コンサル東京）
	⑤ 多職種連携 ～関連職種との連携～	◎	高野 知樹（神田東クリニック、院長）

5分野基礎研修（5分野の実務における基本的課題）研修課題のリスト



実務の基本を学び、自らの職務に活かせる視点を得る

◆ 5分野基礎研修では、共通基礎研修での理解をもとに、心理職の職務に関わる実践的なテーマについて2つ基本的課題を学ぶ。
「5分野の実務における基本的課題」では、5分野の実務の基本を学び、各分野の特質や異同を理解して、自らの職務に活かせる視点を得ることを目指す。

【講義形式】

- ・講師1名による講義・・・◎
- ・複数名講師による講義・・・○
- ・インタビュー・対談講義・・・△
- ・シンポジウム講義・・・□

5分野の実務における基本的課題 単元		5分野の実務における基本的課題 各単元の研修課題（各単元1時間程度）	講義形式	研修講師
1	保健医療分野の実務における基本的課題	⑥ 外来医療における発達障害者の支援-10分間でなにができるか	△	黒木 俊秀（中村学園大学、教授） 杉山 登志郎（福井大学、客員教授）
		⑦ 精神科急性期病棟における多職種連携	△	黒木 俊秀（中村学園大学、教授） 調整中
		⑧ リスクアセスメントとクライシスプラン	△	黒木 俊秀（中村学園大学、教授） 野村 照幸（犀潟医療センター）
		⑨ 医療従事者の虐待対応とその後-TICの視点から	△	黒木 俊秀（中村学園大学、教授） 毎原 敏郎（兵庫県立尼崎総合医療センター）
		⑩ パーンアウトした医療従事者の支援	△	黒木 俊秀（中村学園大学、教授） 若林 英樹（三重大学、教授）
2	福祉分野の実務における基本的課題	⑥ 児童虐待対応の流れと心理職の役割	◎	薬師寺 真（倉敷児童相談所、所長）
		⑦ 社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割1：小学校年齢児	◎	藤原 誠（香川県子ども女性相談センター、次長（兼）相談支援課長）
		⑧ 社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割2：思春期・青年期	◎	増沢 高（子どもの虹情報研修センター、研究部長）
		⑨ 高齢者支援における高齢者と家族に対する心理的支援の実際	◎	加藤 伸司（東北福祉大学、教授）
		⑩ 強度行動障害の理解と支援の実際	◎	高橋 潔（鉄道弘済会、理事）
3	教育分野の実務における基本的課題	⑥ 教職員へのコンサルテーション・コーディネーション	○	谷島 弘仁（文教大学、教授） 小野瀬 雅人（聖徳大学、教授） 小林 朋子（静岡大学、教授）
		⑦ 学校組織とチーム学校の理解	○	家近 早苗（東京福祉大学、教授） 西山 久子（福岡教育大学、教授）
		⑧ 保護者、地域との連携	○	大河原 美以（大河原美以心理療法研究室） 田村 節子（東京成徳大学、教授）
		⑨ 子ども（当事者）とのパートナーシップ	○	水野 治久（大阪教育大学・教授） 池田 美樹（桜美林大学・准教授） 小栗 貴弘（跡見学園女子大学・准教授）
		⑩ 教育分野における課題と公認心理師の役割	□	石隈 利紀（東京成徳大学、教授） 家近 早苗（東京福祉大学、教授） 水野 治久（大阪教育大学、教授） 半田 一郎（子育てカウンセリング リソースポート） 大石 幸二（立教大学、教授）
4	司法・犯罪分野の実務における基本的課題	⑥ 逸脱行動の背景にある愛着の課題や発達の課題の理解	○	富田 拓（北海道家庭学校樹下庵・網走刑務所医務課、医師） 野坂 祐子（大阪大学、教授） 田中 康雄（こころそだちのクリニックむすびめ、医師）
		⑦ 家庭内紛争の中にある子どもの心理	○	安保 千秋（都大路法律事務所、弁護士） 熊上 崇（和光大学、教授）
		⑧ 司法関係者等との有効な連携を図るためのアセスメントと関わり	○	寺村 堅志（常磐大学、教授） 仲 真紀子（理化学研究所、立命館大学、教授）
		⑨ 医療観察法と公認心理師の役割	○	古村 健（国立病院機構東尾張病院 精神科リハビリテーション療法研究室、室長） 西中 宏史（早稲田大学、助教）
		⑩ 依存症の理解と対応	◎	松本 俊彦（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 ／薬物依存症センター センター長、医師）
5	産業・労働分野の実務における基本的課題	⑥ 外部EAP論 ～若手の退職事例～	◎	田中 勝男（公認会計士）
		⑦ 産業精神保健論	◎	高野 知樹（神田東クリニック、院長）
		⑧ 復職支援（リワーク）	◎	三宅 美樹（トヨタ車体研究所）
		⑨ 雇用に関わる法とルール ～労働法と就業規則の枠組を知る～	△	小島 健一（弁護士） 三宅 美樹（トヨタ車体研究所）
		⑩ 多様性の時代の雇用 ～雇用における多様性を考える、人権、倫理、公正との関連から～	◎	白木 三秀（早稲田大学、名誉教授）

◆ログイン画面

◆ホーム画面

ログイン後、受講選択画面が表示されます。
講義視聴の他、シラバスや講義資料の掲載、学習のまとめの資料などが選択できます。
インフォメーションから受講に関する最新情報を確認できます。

◆研修課題選択画面

受講期間中は、繰り返し講義を視聴できます。

公認心理師試験研修センター

受講者サンプル ログアウト

ホーム

【5分野基礎研修】受講【第2クール】

ヘルプ

第2クール パスワード入力

導入 人々の生活を支える礎となるもの

01 心理専門家の責任、クライアントの責任

02 事実を探求する

03 自分にとって大切なことを知ること、伝えること、共有すること

受講したい研修課題を選択して受講を開始します。

◆講義画面サンプル

講師1名
または
リレー形式

身体とこころ
こころの病とこころの健康を考える

事例：16歳の女性、A
入院後の心理面接、及び心理検査

- 生活史と主訴の確認を行うと、「顔が可愛かったら、気楽に堂々とできてお母さんの機嫌を損ねなくなる」という。具体的には「母親の買って来たかわいい服を堂々と着ることができ、母親の誘いのままいつでも外出できる」こと。自分の顔について「目が離れて変」「少し前歯が出ている気がする」だが「（美容形成したら）後悔するからしない」という。
- 心理検査：WAIS - III FIQ93, VC82<PO93≒WM96<PS121
検査中、首を振ったり、ため息をつくが、疲労や困難さを発言することはなかった。言語理解の低さと処理速度の顕著な高さと合わせ考慮すると、他者への援助要請が苦手ではないかと考えられた。
- 入院中、認知行動療法を実施することにした。

杉山 登志郎

共通基礎研修

相互コンサルテーションの例

・多職種連携のメンバーは、コンサルタントでもありコンサルティでもある。

・家族も相互コンサルテーションのメンバーとなり得る。

教師

スクールカウンセラー

保護者(家族)

相互コンサルテーションにおけるコンサルタントおよびコンサルティの関係

事実を探求する
さまざまな分野における事実の取り扱い

人間の理解を考える
人間の理解、人間存在の理解

高橋 道

神庭 重行

シンポジウム形式
または
インタビュー形式

～各単元の受講者の感想～

自己決定権がなぜ強調されるのか、「支援の提供」ではなく「意思決定支援」なのか、「専門家」は時として、クライアントの希望よりも自分の専門性を優先してしまったり、クライアントの気持ちや個別事象を捨象して対応してしまったり、自らが良いと考える方法を試してみたくなかったりしていないか？ということ自分を当てはめて考え、振り返ることができました。

(②基本的人権の尊重と今日的課題)

多くのエビデンスを体系的にわかりやすく伝えていただきました。人の発達について、生涯を俯瞰した広い視野と理論にもとづく支援の視座を得られたと思います。さらに発達について学びたいという意欲が出る内容でした。

(⑨人間のライフ・サイクルと心理社会的成長)

アセスメントをすること、また心理検査結果をフィードバックすることに対して、これまでどこか独りよがりな考え方をしていたことに気が付いた。検査結果を受けての現在の結果をどのように解釈し、伝えるか、といったことしか考えられていなかったが、検査結果を受けるまでの経緯を踏まえ、また今後の支援に向けてどのように伝えるとよいのか、どのように介入できるのか、といった視点も重要だと理解した。

(⑫心理的支援の現場における実践的なアセスメント)

「良く生きようとする力は、大切な人が心に宿ることで育まれる」ということ、「平凡な日々の中にある小さな幸せの積み重ね、温かい人との思い出」をもつということ。この優しい言葉には、まるで言霊が宿っているようで、これまで子どもとどのように触れ合ってきたのかが伝わってくるものでした。そのような言葉の背景にある、人やものを観る目線や関わり方から多くを学ぶことができたような気がしています。

(⑯家族像とアイデンティティ)

人間の苦境の背景には疾患だけでなく文化が強く影響している。その人の理解を深め支援に繋げていく為に医療職としての専門知識を常に学んでいくことも重要であるが、文化的思考を持ち、社会的な要素、日本史、世界史、地理、公民など幅広い学びを深めていくことも重要なのだと認識した。

(⑭心理的支援の実践における文化)

公認心理師としての基礎・基本的な理解から、自分自身のなかでの新たな視点として大切にすべき姿勢や構えを学ぶことができました。また、「変わるもの、変わらざるもの、変えてはならないものについて考え続ける」というメッセージは、常にここに留めておき、努めていきたいと思いました。特に最後に示していただいた、「オーケストラの総譜を理解しつつも、謙虚に責任を自覚して、目立たず自分のパートを弾く心持ちで仕事をする」とは、今後仕事をするうえで、ずっと持ち続けていきたいと思えます。

(①国家資格としての公認心理師)

生命倫理の入口を学ぶことができた。仕事で障害のある子どもやその保護者と関わることが多い。彼やその家族と接する際に、彼らの自己決定権を念頭に置きながら、支援を進めてきている。しかし、本講義を受けた際に、生命倫理を含めて考えていなかった。彼らがどんな想いで生きているのか、また、生活をしているのかを真摯に受け止めないといけないと考えた。早速、明日から彼らの一挙手一投足の意味を深めながら、学校に通い、勉強を始め学校生活を送っているということの意味を再考していく。

(④生命倫理)

企業や学校などを考える場合、組織要因や個人要因の2つの視点から問題解決のアプローチをかけることを再認識した。心理師と多職種の連携を促進するためには、お互いを知り、尊重し合う態度が必要であることに同感である。

(⑯連携・協働に必要な実践力②)

現在の職場を参照しながら、本講座を学ぶことができた。個人と組織の関係の中で起こる心理現象の一部を知ることができた。多忙さや同調圧力などと言った風土の中で、私という軸を崩さずに、職責を全うするためのヒントを得ることができた。エラーやミスを誘導する集団過程の心理現象は、常に私自身の背後に存在する。このスライドを手元に置きながら、自分自身が飲まれていないかどうかをチェックできるように準備して、個人や組織を硬直化が起こらないように心がけていく。

(⑫社会集団・組織と心身の健康)

記述精神医学と力動精神医学の歴史的な面について学べた。医師による診断には処置法を決定するためと、専門家同士の共通言語としてと、家族や本人に説明するための3つの視点があることが理解できた。境界性人格障害や現在の発達障害、トラウマについてなど医療の理論や診断については刻々と変化していることを理解した。

(⑧こころの病とこころの健康を考える)

～共通基礎研修(第1クール) 終了時の受講者の感想～

単元構成がよく、各研修課題を通して基本原理が学習できたと感じました。各分野のプロフェッショナルの方々の話が聞けたことで、専門ではない分野についても理解が深まりました。職務に関する基本的な姿勢については、どの講師の方も総じて、状況や障害名にとらわれず目の前にいる相手と向き合うことや、支援者自身が心理職として向き合うばかりでなく、一個人として信頼関係を築き、目の前の相手の主体性を引き出しながら関わることの大切さを説かれているように思いました。相手の求めていることを尊重し、状況を改善するためにできることを一緒に考えていく姿勢が必要だと学びました。

また、社会や経済、文化という大きな流れの中で個人を捉えること、そして私自身もその中にいることを俯瞰しつつ、支援策を考えていくことが大切だと学びました。さらに、心理職のみでできることは限られており、その中で自分の知識や経験で対応できることも限られているので、連携を大切にしながら相手にとってその時一番良い対応を考えていきたいと思えます。

共通基礎研修の範囲は、多岐に渡っていた。今まで系統だっただけでここまで多岐に渡り学習したことがなかった。広い範囲の基礎知識が必要であることを知ることで、職務に対してどのような姿勢が必要かつ大切であるかということを実感できた。

これほど著名な先生方の講義をまとめて受けるということはこの実務研修において他にないと思えます。ただ、録画であることは良いという一方、どれほどの力になったかの評価は各個人任せになるところは仕方ありません。しかし、自分としては仕事をしながら、時間を見つけ聴講しそして、わからないところ聞き漏らしがあつたところは何度も繰り返し聞き直し整理できたことは非常に大きな実りになったと思えます。

公認心理師に求められる知識や態度、姿勢などが多岐に渡ることを改めて実感した。その範囲や量、質に圧倒されるが、対人援助とは、そのような基礎的な土台無くしては有りえないのだと感じる。今回の研修で達成できたとは到底思えず、自分の至らなさ、知識不足を再認識した。

様々な大学や大学院の先生方のご講義を受けることができ、大学や大学院進学だけでは経験できないくらいの貴重な機会をいただきました。また、どの分野も職務上大切なことばかりで、日々のカウンセリングにすぐに生かすことができました。しかし、基礎的実践的なものではなく、理論部分を深く教えていただいたので、どの分野にも応用が利く内容でした。また、カウンセリングだけでなく、自分自身の人生の知見を広げるのにもとても役立ちました。

公認心理師としての心構えや社会から求められている役割、具体的なかわり方までイメージすることができた。基礎知識が十分に補填されたことで、自信につながった。

人間理解のための基本的な考え方や人間を取り巻く社会の基本的な理解に対して5分野の視点から研修を受けることができました。対人援助での視点について学習できました。また、法制度についていろいろな分野から広く考えさせられることがたくさんありました。難しい内容もたくさんあり、実際の支援をどうするのか、どう連携していくのか今後もたくさん学習していく必要性を感じました。一つ一つの研修の中での視点は、どれも広く内容も深いと感じました。知らないこともたくさんあり奥が深いと感じました。

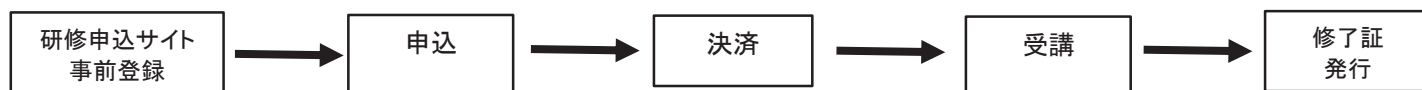
これまで十分に知らなかったことについて学ぶ機会をいただきました。学べば学ぶほど広さと奥深さを感じています。学び続けることが必要であり、職務に対する姿勢は日々問われるものと思えました。

共通基礎研修の受講を通して、公認心理師としての倫理と責務を理解すること、人を理解すること、人を取り巻く社会を理解すること、についての学びを深め、心理専門職として核となる基本的姿勢を明確にすることができました。ここで学んだ公認心理師の基本的姿勢は、私の日々の実践を省察するうえで役立っています。また、この研修をきっかけに、文化についての関心が高まり、関連書籍を読んで多様な文化への理解を広げることができました。

実務基礎研修検討委員・ワーキングチーム（WT）委員【所属名簿】

分野	委員	氏名	所属
—	委員長	神庭 重信	九州大学 名誉教授
—	顧問	村瀬 嘉代子	公認心理師試験研修センター 顧問 大正大学 名誉・客員教授
保健医療	委員	黒木 俊秀	中村学園大学 教育学部児童幼児教育学科 教授
	WT委員	神田橋 宏治	合同会社DB-SeeD 代表
	WT委員	草地 仁史	一般社団法人日本精神科看護協会 事務局 政策企画局 局長
	WT委員	大岡 由佳	武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科 准教授
	WT委員	古村 健	独立行政法人国立病院機構東尾張病院 社会復帰科
司法・犯罪	委員	橋本 和明	国際医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 教授/学科長
	WT委員	富田 拓	網走刑務所 技官 北海道家庭学校 精神科医（兼務）
	WT委員	門本 泉	大正大学 臨床心理学部臨床心理学科 教授
	WT委員	嶋田 洋徳	早稲田大学大学院 人間科学学術院 教授
福祉	委員	増沢 高	子どもの虹情報研修センター 研究部長
	WT委員	薬師寺 真	岡山県倉敷児童相談所 所長
	WT委員	藤原 誠	香川県子ども女性相談センター 次長（兼）相談支援課長
	WT委員	下山 真衣	信州大学 教育学部特別支援教育 准教授
教育	委員	石隈 利紀	東京成徳大学大学院 特任教授 筑波大学 名誉教授
	WT委員	家近 早苗	東京福祉大学 教授
	WT委員	水野 治久	大阪教育大学大学院 教授/副学長
	WT委員	半田 一郎	茨城県スクールカウンセラー 子育てカウンセリング・リソースポート
	WT委員	大石 幸二	立教大学 現代心理学部心理学科 教授/副総長
産業・労働	委員	金井 篤子	愛知みずほ大学 人間科学部心身健康科学科 特任教授 キャリアセンター長/教職センター長 名古屋大学 名誉教授
	WT委員	外島 裕	日本大学 名誉教授
	WT委員	三宅 美樹	(株)トヨタ車体研究所 みきカウンセリングオフィス
	WT委員	高野 知樹	神田東クリニック 院長 産業医療統括

● 申し込みから修了までの流れ



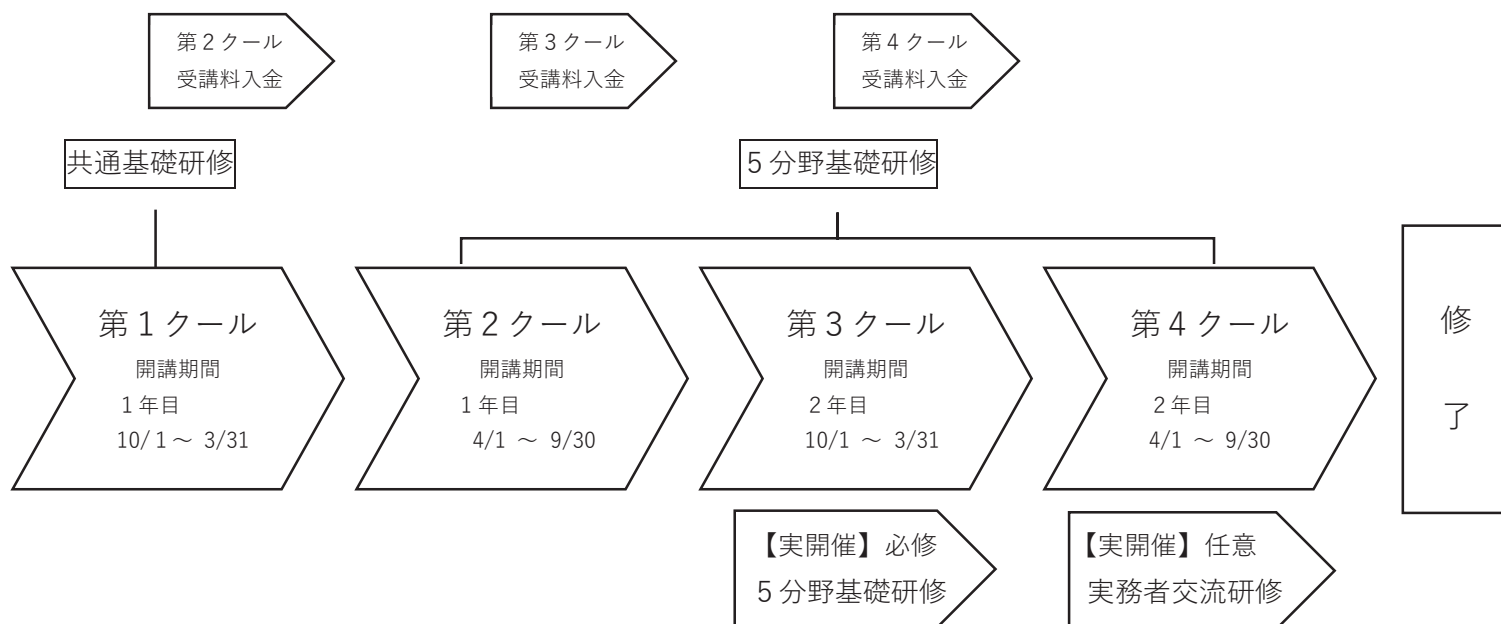
毎年8月に受講申し込み開始、10月より開講します。

本研修修了までの開講期間、受講料入金期間は以下のとおりです。

第4クール以外は、開講期間中に次クールの受講料入金期間がありますので留意してください。

次クールの受講料入金は『研修マイページ』から行ってください。

● 開講期間等チャート



● 受講料

各クール（6か月）	25～28 講義	60,000 円（税別）	66,000 円（税込）
全4クール（2年間）	111 講義予定	240,000 円（税別）	264,000 円（税込）

※オンデマンド研修の1講義あたりの受講料は平均 2,160 円(税別)・2,380 円(税込)です。

オンデマンド研修とは別に、参加型の実開催研修があります。

※受講料はクールごとの入金となります。4クール一括の入金はございません。

※各クール中は、繰り返し受講が可能です。

※個人でお申込みの場合、クレジットカードまたはコンビニ決済となります。

所属先事業所等から研修としてお申し込みの場合、別途対応しますので、お問合せください。



公認心理師

一般財団法人公認心理師試験研修センター
(旧 日本心理研修センター)

〒112-0006

東京都文京区小日向4-5-16ツインヒルズ茗荷谷10階

TEL : 03-6912-2655 (平日10:00~17:00)

Email : info-kensyu@jccpp.or.jp

ホームページ : <https://www.jccpp.or.jp/>

※最新情報を随時掲載しますので、ホームページを適宜確認してください。

